

令和3年度の検討課題

令和3年5月6日
ジョブ型研究インターンシップ推進委員会

課題Ⅰ・令和3年度からの「先行的・試行的取組」における具体的な検討課題

- 「先行的・試行的取組」を実施する中で明らかになった課題
- 企業・大学と引き続き意見交換する中で明らかになった課題
- 学生へのヒアリング（取組に意欲的な学生だけでなく、関心の低い学生にも実施） 等

課題Ⅱ・「先行的・試行的取組」からさらに取組を展開するための検討課題

- 社会科学系分野に取組を拡大するための課題
 - ・ 金融(銀行、証券、保険等)分野において、ジョブ型研究インターンシップ実施への期待が存在
 - ・ 企業ニーズの把握、実施を希望する大学等の掘起し
- 修士課程学生に取組を拡大するための課題
 - ・ 就職活動の早期化、短期インターンシップの繰り返しは、企業、学生双方にとってメリットは薄く、学業に支障をきたし、大学側も学生の学修成果の質の保証をすることが困難
 - ・ 就職活動により学業がおろそかになっている学生に対し、大学として厳しい姿勢を示すことや企業側へ強いメッセージを出していくことも考える必要あり
 - ・ 一方、ジョブ型研究インターンシップに関心のある大学の多くは、学業に支障をきたすことなく行われ、学生の成長にとって有意義な形で行われる長期研究インターンシップであれば、その成果を採用選考活動に活用することは概ね問題ないとの認識
 - ・ 国際競争にさらされている企業は、競争力維持の観点からジョブ型採用の拡大は避けられず、一定の専門性が期待される修士課程学生についても、実践力を強化すべく、インターンシップも活用しながら、より大学院教育に関与していく必要あり
 - ・ 産業構造も考慮しつつ、我が国の国際競争力向上にとって望ましい形での修士課程学生を含めたジョブ型研究インターンシップの可能性について、引き続き検討